

面接調査法の諸問題 その2

西 平 重 喜

(1956年7月受付)

On the Interviewing Method-Part 2.

SIGEKI NISHIHARA

We treated on several problems on the interviewing method in the Vol. 3 No. 1 of this proceedings. Here we shall solve some problems concerning with questionnaire types and wording by the data of our public opinion survey.

Institute of Statistical Mathematics

まえがき

さきと同じ題名で発表した論文でものべたように、面接調査法に関するいくつかの問題について実際の調査から得たデータを縦断的にまとめたのである。

こんどは、前回とは別の点についてのべるのであるから、§の番号は、前回のものをつづけることにする。

§9. 質問文や方法のちがい

同じことがらに関する調査でも質問のしかたによつて、結果がちがってくることは、しばしばおこることである。もしも調査する機関が、なにかの意図をもつて、ある結果を得たいと考えたとすれば、あるていどその意図にかなう結果を得るように、質問をつくることさえできるであろう。

しかし、一般にわれわれが世論調査をおこなう場合には、質問は客観性 (objectivity)、妥当性 (validity)、信頼性 (reliability) などについての保証が必要である。では、どんな質問方法がこのような保証にかなうものかということ、重要な問題ではあるが、かんたんにきめられないものである。けっきよく、実際の調査をとおして、結果を比較し、解釈をするよりしかたがないようである。しかも調査の内容や、その時の社会状況などの要因が大きく働らくので、一般的に調査の内容の種類 (genre) をつくることや、各種類に応じて適切な質問方法を決定することは、きわめて困難である。

たとえば、かの有名な Cantril, H. の Gauging Public Opinion には、終戦後のガス・電気会社に対する政府の統制についての世論調査と、アルコールに対する統制について世論調査について '同じ位' ということばを入れるか入れないかで、前者の結果には大いにくいちがいがおこり、後者では全く差がないことをのべている。これは世論の測定に、質問方法という技術的な問題と、当時のそれぞれの内容についての社会の実状とが、からみあつて複雑な結果が起つていることを示しているといえよう。

ところで、調査をするものにとつては、調査の内容だけが問題であるから、技術上の問題についてはあるていどの一般的な結論がほしいわけである。そうして、その一般的な結論にもとずいて、質問方法をえらぶよりほかにやりようがないといえよう。このようなわけで、ひとつひとつの内容

によつて，結果に大きな変化があることは承知の上で，一般的な質問方法の比較をのべるわけである。

しかも，一般的とはいうものの，実際に市民に対して多くの調査をすることは，費用の関係からとうてい期待できない。われわれはかねてからいつもこれらの問題を考えていたので，機会あるたびに，他の調査におおきつて，データを集めてきたのである。したがつて，以下にのべることは，データ自身は完全であるが，それよりさきの一般的な拡張には，かならずしも十分なものであるとはいえない。しかし，このような一般的拡張は，いつもそれ以前に得た結果からの，可能性の展開にはかならないであろう。

質問の形式にはいろいろの問題があるが，ここでは，ほとんど同じ時期におこなつた4つの調査についての結果を比較しよう。この4つの調査というのは，つぎのような要領でおこなわれた。

9.0 調査の要領

この4つの調査はいずれも東京都の区政施行地域（以下，ただ東京という）でおこなつたものである。いずれも，投票区または町（丁目）を，それぞれの特性を考えた上で層別し，人口比に応じて投票区や町を第1次に抽出し，つぎに各投票区や町（調査地点）の台帳から，等間隔にサンプル（個人）を抽出した。

なお， β 調査というのが，男だけについておこなわれたので，他の3調査も比較のため男だけについてのデータをあげることにする。〔調査の内容は文末（p.7）の追記を参照〕

調査員は，大学の学生である。

略 称	時 期	回収サンプル数(男)	サンプリング台帳	地点数
EF III	1955 年 4 月 末	245	選 挙 人 名 簿	45
EF IV	" 10 月 末	193	住 民 票	45
α	" 7 月 末	288	選 挙 人 名 簿	40
β	" 9 月 末	500	"	"

なお， α と β の調査地点は同じ投票区である。

9.1 質問の形式によるちがい

9.11 サンプルに選択肢のリストを見せるかどうか

ふつうの面接調査では，調査員が質問文をサンプルに読み上げて（伝えて），これに対するサンプルの答を聞き，その答を調査員がそのまま（または要点だけを）記入してくる自由回答法（free answer）か，あるいはその答の内容を調査員が判断して，あらかじめ印刷されている選択肢のどれかにチェックをしていくという方法が使われている。もし面接のさいに，録音器が使用できれば，調査員の判断を通す必要がなくなるので，調査員による判断のゆがみはのぞくことができるわけであるが，現在はまだ録音器を自由に使いこなせる時期ではない。

そこで，調査員の判断のゆがみをのぞくために，選択肢を印刷したりリストをサンプルに見せて，その中からサンプルの答をえらばせることがある。この方法によれば，質問文を短くできるので，サンプルの記憶のまちがいのぞくことができる。一方，サンプルの判断(答)を一定のわくにおしこめるおそれがある。しかし面接調査の録音を，あとから整理する場合でも，一定のわくの中で処理するのであり，調査するものにとつては，質問にはねらいが始めからあるから，わく（frame）を始めから示すか否かのちがいにすぎない。またどうしてもそのわく（リスト）に満足できないサンプルの答は，別に記録してくることにしておけば，この答の数によつてあらかじめ設定した

わく(リスト)の妥当性も、あるていど判かるはずである。

なお、字の読めないもののために、フリガナをつけたり、ゆつくり読んでやることもある。

以上の点を考えたうえで、以下の結果をみよう。

β 50 このごろの若い人たちについて、つぎのような2つの意見があります。

甲の意見：「このごろの若い人たちは、自由とワガママとをハキチがえている。若い人たちは、もつと規律や作法を教える必要がある」

乙の意見：「若い人たちは、とやかくいわないで、のびのびと、自由にさせてやるのがよい」
あなたはこのどちらの意見に賛成ですか？

E F IV 31 [リスト] このごろの若い人たちについて、次のような2つの意見があります。あなたはどちらの意見に賛成ですか？

[注：リストは β 50 の甲、乙に同じ]

	もつと規律	どちらとも	自由に	他	計
β 50	62	9	27	2	100(500)
E F IV 31	59	16	24	1	100(198)

この結果は、ほとんど差がないえという。

そこで、質問文が長いとサンプルの緊張も長くなることを考えると、リストを大いに活用すべきであると思われる。

9.12 ひとつ選べと順位づけ

選択肢の内容が相互にむじゆんしない場合には、選択の順序を考えることができる。このため、(1) '順位をつけよ'、(2) '1番から第n番目まで順位をつけよ'、(3) 'n個だけえらべ' (4) 'いくつでもえらべ' (5) 'ひとつだけえらべ'、(6) '重要さ(など)の段階づけをせよ' などという方法がある。さらに逆に、negative な順を考えることもできる。

このうち、ここでは (1)、(2)、(5)、(6) についての比較をする。(3)、(4) は (2) と (5) の中間形と考えることができよう。

1° まず (1) '順位づけ' と (5) 'ひとつだけえらべ' とを比較しよう。

つぎの表の [β 32] が (1) 形式で、[Ⅶ 27] が (5) 形式である。(5) のひとつえらべというと

β 32 [リスト] 世間では一般に、ある人の地位や身分が高いとか、低いとか、申しますが、それは、一体何によつてきまるのでしょうか。ここにかいてあるものについて、一番重要だとお考えになるものから、順番にあげてください。

E F IV 27 の部分を、つぎのように変更：一番重要だとお考えになるものをひとつだけあげてください。

α 29 [リスト] それでは、このような五つの層(上流、中流の上、中流の下、下流の上、下流の下)の区別は、一体何によつてきまるのでしょうか。ここに書いてある順に、あなたのご意見をうかがいますから、ある人がぞくする層をきめるばあいに、ぜひ必要なもの、少し必要なもの、必要でないもの、の3種類にわけて下さい。(あなたの感じられる通りを、いつてくださればよいのです。)

[リスト] 職業の種類、学歴の高さ、収入の多少、家柄のよしあし、有名か否か、財産の多少

[注：α 29 のリストはこのほかに評判が入っている]

	職業	学歴	収入	家柄	有名	財産	計*
β 82 { 第1位 平均順	2.5 18	1 28	4 10	5 9	6 8	2.5 18	100(500)
	3	1	4	5	6	2	
E F IV 27	3 17	2 20	4 10	5.5 5	5.5 5	1 21	100(198)
α 29 { ぜひ必要 平均順	4 40	3 42	1 65	5 15	6 13	2 46	
	4	2.5	1	5.5	5.5	2.5	

イタリックは %、小字は順位

α 29 の 100% は 288

* その他をふくむ

きえられるものは、(1)の順位づけのとき1番となるであろうということ、予想されることであるが、事実〔Ⅳ 27〕の%と、〔β 32〕で第1位が与えられた%とはよく似ている。しかしこの%の大小によつて、順序をつけると、多少のくいちがいがおこつてくる。〔Ⅳ 27〕では一番重要な基準は財産(21%)であるが、〔β 32〕では学歴(28%)となつてしまう。しかしこれはサンプリング誤差のはい内内のくいちがいでもあるから、第1位と、ひとつえらべという質問のちがいであるか否かきめることはできない。

〔β 32〕の方では第1~第6の順位をつけたのであるから、この順位から各選択肢の平均順位を求めてみた。この平均順位によつて、各選択肢に重要な順序をつけると、第1位のときの順序と全く一致している。

この結果を記号的にかくと、

‘第1位の%の大小’ = ‘平均順位の大小’

‘第1位の%’ ≡ ‘ひとつえらべの%’

という関係がえられたわけである。

2° 以上の結果に、(6)の段階づけ方法による結果を、あわせて考えてみよう。これが〔α 29〕である。

〔Ⅳ 27〕でえられたもの、〔β 32〕で第1位につけられるものは、〔α 29〕のような質問方法をすれば、一般には‘ぜひ必要’とされるであろう。そこで、‘ぜひ必要’とされた%を出して、この%の大小の順位をつけてみると、収入は〔Ⅳ 27〕や〔β 32〕では第4位であるのに、この方法では第1位となつている。しかも〔Ⅳ〕や〔β〕の%のサンプリング誤差を考えても、このようなことが起るとは思えないので、質問方法のちがいがあらわれたのであろう。どうして、このようなちがいがあらわれたかは、ここではのべないが、社会心理学的には興味のあることであろう。

3° つぎに(2)‘1番と2番’と(5)‘ひとつだけ’の比較をしよう。

β 41 [リスト] 世の中には、才能もあり、まじめに努力しているのに、出世できない人がいますが、なぜそうなのでしょう。ここにかいてあるものの中で、一番大きな原因となるものはどれだと思いますか？ そのつぎのものはどれですか？

[リスト] 財産がないこと、父の社会的地位が低いこと、よい縁故関係がないこと、よい学校を出ていないこと、職業の選び方が悪いこと、上の人との折角が悪いこと、社会全体の制度が悪いこと

EF IV 30: ~~~の部分(ひとつだけえらんで下さい)とかえる。

	財産	父の地位	縁故	学歴	職業	上役	社会	計*	
β 41 {	4	7	5	3	2	6	1	100(500)	
	8	2	7	14	23	6	33		
	6	7	3	1	2	4.5	4.5	12	100(500)
合計点	5	7	4	3	2	6	1		
EF IV 30	6	7	3	4	2	5	1	40	100(193)
	5	2	12	9	14	8	40		

* その他をふくむ

この表の第1行目は一番大きな原因の%，第2行目はそのつぎに大きな原因の%であり、第3行目1番大きな原因に2点、2番目に1点を与えた合計点の大小である。

この結果も、1番大切と、ひとつえらべの%はだいたい似ているし、その差はサンプリング誤差によるものであろう。%の大小の順もくるつていのは%の小さい下位の方であるから、サンプリング誤差によるものであろう。

合計点の順位と、1番大切、ひとつだけの順位もだいたい一致しており、ちがいはサンプリングによるものと考えられる。

以上から、順位づけとひとつだけえらべから得られる結果は、だいたい同じであると考えられる。

このことは、すでに発表した質問紙法* の場合も同様であるが、質問の内容によつて、いつも同じであるとはいえないこと、および順位づけの中間の順位（1位と最後の真中辺）が、信頼性のうすいことも検討済みである。

9-13 片バイアスの質問

片バイアスというのは、誘導尋問に近い形式である。一般のこのような質問はさけるべきだとされているが、別にのべるように、意図的に使用することは、興味あることである。

つぎに甲乙ふたつの意見のどちらかを選択させる方法と、一方の意見（ここでは乙の意見）だけの賛否をしらべる方法を比較してみよう。

β 51 また、結婚について、つぎのような2つの意見があります。

甲の意見：「愛しあつたどうしならば、身分や家柄は問題としないで、結婚すべきだ」

乙の意見：「身分や家柄がつりあわない結婚は、たとえ愛しあつたどうしでも、やめたほうがよい」

あなたは、このどちらの意見に賛成ですか？

E F IV 32 始めの _____ の部分を取り最後の _____ の部分を、つぎのようにかえる。

あなたは、この意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

	結婚せよ	どちらとも	よ せ	他	
β 51	74	9	16	1	100(500)
E F IV 32	16	15	66	3	100(193)

この結果は、バイアスがきいていることは、あきらかである。

9-2 いいまわし (wording) のちがい

いいまわしのちがい、といつてもごく細かいいいまわしと、概念的にまでちがうものがある。¹⁾ しかも概念がちがうといつても、研究者の立場で考えることどおりに、そのままサンプルも受取るとは必ずしも考えられないのである。

ここでは、かりに用語のちがい、コンテキスト (context) のちがい、細かいいいまわしのちがい、という三つに分けてみよう。

9-21 用語のちがい

ここで用語といつたのは、概念に近いものである。すなわち、つぎの例のように、32の職業を5段階に分類させるにあつて、[α 30]では‘上流、中流の上、中流の下、下流の上、下流の下’という分類をとり、[β 33]では‘最も高い、やや高い、ふつう、やや低い、最も低い’という分類を採用した。

この結果の分布やスコアは一致していないが、両調査によってきまった、32の職業のスコアの相関係数は0.6をこえ、しかもこの結果を適用するポピュレーションでの各職業別人口のウェイトをつけて、相関係数を計算すると1に非常に近くなる。すなわち、いずれにしろ絶対的に意味のあるスコアが出るわけではないのであるから、この場合、どちらでも同じ結果をうるということができよう。

β 33 [職業カード、層名カード] ここに、いろいろの職業の名をかいた紙(カード、名刺)があります。世間では一般に、これらの職業を、高いとか、低いとか、いうふうに区別するようですが、あなたご自身は、どうお考えですか。いま仮りに、これらの職業を、高いものから低いものへの順に、5段階にわけるとしたら、あなたはこれらの職業を、どういうふうに分類しますか。ひとつやつてみてください。

α 30: _____ の部分を変更： その高さに応じて、五つの層（上流、中流の上、中流の下、下流の上、下流の下）に _____

* 質問紙法における諸問題（統計数理研究所 輯報 第10号，1952年）

9.22 コンテキストのちがひ

ここではふたつの例をあげよう。前の方の例は、‘よく働らけば、くらしは楽になるのだ’といういわば optimism な意見に対する賛否を尋ねた。後の方は、‘よく働らいても、世の中が悪いからくらしは楽にならないのだ’という、いわば pessimism な意見に対する賛否を尋ねている。

α 42 もう一度、人々の暮し向きのことについてうかがいますが、世間には、「いくら精出して働いても、暮し向きが楽にならないものがあるのは、社会がわるいからだ」という意見の人があります。あなたは、こういう意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

β 37 また世間には、こういうことをいう人もいます。それによると、「いくら精出して働いても、暮し向きが楽にならないものがあるのは、社会がわるいからだ」というのですが、あなたは、この意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

E F IV 33 「よく働らいても、くらしが楽にならない人があるのは、世の中がわるいからだ」という意見があります。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

	賛成	いちがいに	反対	他	計
α 42	49	23	22	6	100(288)
β 37	50	22	27	1	100(500)
E F IV 33	44	37	15	4	100(193)

α 35 現在の日本には、暮し向きの楽でない人々が、かなりいるようですが、それでもある人は、「精出して働けば、暮し向きは楽になるはずだ」と考えています。あなたは、こういう考えに賛成ですか、それとも反対ですか？

β 36 世間には、こういうことをいう人があります。それによると、「精出して働けば、暮し向きは楽になるはずだ」というのですが、あなたは、こういう考えに賛成ですか、それとも反対ですか？

E F IV 26 「今の世の中でも、よく働らけば、くらしが楽になるはずだ。」という意見があります。あなたはこの意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

	賛成	いちがいに	反対	他	計
α 35	59	19	19	3	100(288)
β 36	66	16	17	1	100(500)
E F IV 26	34	35	29	2	100(193)

後の方では、[IV 26] の分布は [α 35], [β 36] と大分ちがつている。どうしてこうなつたのか、にわかに解釈することはできない。

あとの方は、いずれも対応する optimism の質問よりあとで出しているが、[α] と [IV] では6問とばしたさきに入れ、[β] ではつづけて質問したが、サンプリング誤差をこえる差はみとめられない。とくに [α] と [β] は、前おきがちがうだけであるから、全く同じ質問と考えれば、6問とばしたことと、すぐつづけて聞いたこととに、差がないことを示しているといえよう。

9.23 こまかないいまわしのちがひ

ここでは、4組の質問をあげる。第4の例の [α] では‘実際に必要な物を作っている人々’としてあるのを、[β] で‘物を作っている人々’といいかえたのであるが、これによつて、25%の差が出たことは、注目に値する。

しかし、他の3組では、全く差がないといつてよいであろう。

β 56 こういう意見があります。「日本の国をよくするためには、国民のひとりひとりが政治に関心をもつて、いろいろ意見を出すよりは、すぐれた政治家に、いつきをまかせたほうがよい」というのですが、あなたは、この意見に賛成ですか、それとも反対ですか？

E F IV 29 「日本の国をよくするためには、すぐれた政治家が出てきたら、国民がたがいに議論をたたかわせるよりは、その人にまかせた方がよい」という意見がありますが、あなたはこれに賛成ですか、それとも反対ですか？

	賛成	いちがいに	反対	出ない	他	計
β 56	27	7	62	3	1	100(500)
E F IV 29	20	15	54	7	4	100(193)

α 41 労働者階級と資本家階級の関係について、ここに、甲乙二つの意見がありますとします。

甲の意見：「労働者階級と資本家階級の利害は、全くあい反しているから、労働者階級は、あくまで資本家階級とたたかわねばならない」

乙の意見：「会社がもうかれれば労働者の賃金も上るといのように、資本家階級と労働者階級の利害は結局において一致するのだから、労働者階級と資本家階級は、協力しなければならない」

あなたは、この二つの意見の、どちらに賛成ですか？

β 48: 〃の部分 (甲) 労働者階級と資本家階級とは、あくまでも (乙)とは

	たたかえ	どちらとも	協力せよ	他	計
α 41	10	6	81	3	100(288)
β 48	16	6	77	1	100(500)

β 38 あなたは、自分が正しいと思えば、世間のしきたりに反しても、それをおし通すべきだと思いますか。それとも、世間のしきたりに従つたほうが、万事まちがいが無いと思いますか？

E F IV 34: β 38 の 万事 をとつただけ

	おし通せ	従え	場合による	他	計
β 38	47	29	23	1	100(500)
E F IV 34	43	23	27	7	100(193)

α 33 [リスト] あなたは、実際に必要な物を作っている人々と、物を売り買ひする仕事をしている人々と、学者や芸術家のような人々と、そして役人や議員のような人々と、この四つの中で、どれが一番、社会的に見て価値が高いと思いますか？(社会に一番役立っているとお考えですか？)

[リスト] (イ) 実際に必要な物を作っている人々 (ロ) 物を売り買ひをする人々

(ハ) 学者や芸術家

(ニ) 役人や議員

β 35: 質問、リストとも 実際に をとつただけで他は α 33 に同じ。

	作る	売 買	学・芸	役・議	他	計
α 33	67	3	11	7	12	100(288)
β 35	42	3	32	13	10	100(500)

以上、まとめてみると、当然予想されるようなことが成立つのであつて、あげ足とりのこまかな議論は意味がないことが判かる。しかしこのことは、質問をいいかげんに作つてよいというわけではないことも、上のデータ自身がもの語つていのである。

質問をつくるときに、われわれのねらい通りピッタリと当てはまる質問をつくるとは、いうまでもなくなかなかむずかしい。ふつうの文章で同じ内容をのべていてもじょうずへたがあるように、質問をつくるときにも、じょうずへたということがあつてあろう。しかもふつうの文章のように、個人的なスタイルがあることも注意を要することである。ふつうの文章の場合は、ひとつのスタイルを売り物にする作家もいるが、一般に面接法の質問では、あらゆるスタイルを使ひわけることが肝心であることはいふまでもない。

通 記

ここで扱つた、調査は p. 2 の表のとおりである。EF III, EF IV というのは統計数理研究所がおこなつた。マスコンの効果 (effect) の研究の第3次、第4次調査である。α, β というのは日本社会学会の社会的成層と移動の研究の東京での第1次、第2次調査である。その詳細は別の報告書が出されている。

(統計数理研究所)